富士山登山鉄道構想(概要)

報告1参考2

富士山登山鉄道構想検討会(2021年2月)

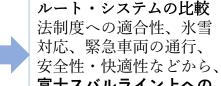
1. これからの五合目アクセス交通の在り方

見直しの必要性

- ・来訪者数の増加に伴い 環境負荷が懸念
- ・交通アクセスの在り方 は来訪者の動態に影響
- ⇒在り方検討が必要

必要な視点

- 地球温暖化対策
- ・感染症対策(密の回避、 安全・信頼の提供)
- ・富士山の保存と適切な 利用の高次元での調和



富士スバルライン上への LRT*敷設が優位

※LRT:次世代型路面電車

2. 登山鉄道導入の基本方針

自動車から登山鉄道への 転換

- ・LRTを軸に、鉄道を整備
- ・既存の道路を活用
- ・許可車両以外の通行を規制
- ・架線レス等先進技術の導入

富士山の顕著な普遍的価値 の保全と望ましい土地利用 における付加価値の向上

- ・来訪者数を一定水準に抑制
- ・鉄道ならではの上質な付加 価値の提供
- ・富士山や地域への還元

富士山の抱える課題解決 への貢献

- ・ライフライン整備を検討
- ・信仰の対象にふさわしい 五合目空間の在り方検討
- ・四季を通じた来訪者の分散



3. 事業運営

事業主体・事業スキーム

- ・官民の役割分担を明確にしつつ、 事業運営の方法を検討
- ・国等の支援スキームの積極活用

事業性の検討

- ・利用者数試算:往復運賃10,000円で約300万人
- ・収支試算の段階では、事業成立の見込み
 - ⇒様々な要素を加味した精査が必要

4. 構想実現に向けて検討が必要な課題

- ●登山鉄道事業の枠組みと事業運営体制
 - ・登山鉄道事業の枠組みの具体化、事業スキームや事業運営者の想定、官民の役割分担等
- ●関係法制度への対応
 - ・世界遺産影響評価等の実施、土地利用に係る各種法制度への対応、軌道法(鉄道事業法) に基づく事業認可、維持管理有料道路である富士スバルラインの取扱い 等
- ●技術的課題の検討
 - ・厳冬期を含めた登坂及び制動性能の検証、架線レスシステム、運行支障への対応方策 等
- ●登山鉄道と併せて検討すべき課題
 - ・噴火等の危機管理対応、富士スバルライン五合目の在り方、ライフラインの整備等